

# 全国の晩ご飯を見た

今は「突撃リアル！ 隣の晩ごはん」という形で3週間に1回くらいやっていますけど、これまで20年、3千軒以上のご家庭の晩ごはんを見てきました。日本で行っていないのは、小笠原諸島くらいですね。やらせなし、打合せなしで、本当に突然行きます。「私は料理が好きなので、ぜひ来てください」なんてハガキをいただいたりするんですけど、前もって打合せがあると思われるんでしょうね。突然行くと「今日はダメ」って断られたりするんですから、困っちゃいます。僕の家にもだつて突然行きましたよ。鍵をかけられたつて、自分で開ければいいんだし。家族は冷蔵庫の残りもので、けんちんうどんを食べてました。僕がいらないのにしゃぶしゃぶ食べられてるよりはいいですけどね。

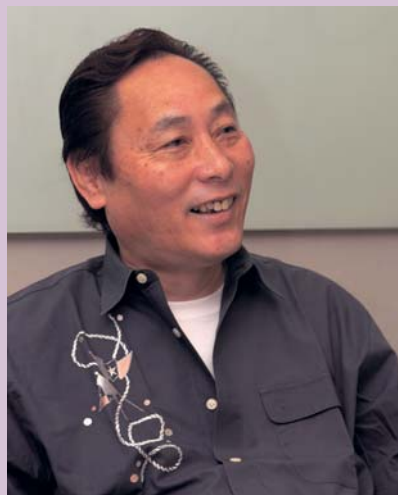
行き先を決めるのはいいかげんです。「そろそろマツタケが食べたいから、山梨県へ行こう」ということもあるし、僕のバスボートの期限が切れちゃう。千葉の松戸で更新するから、松戸へ行こうつていうときもある。とりあえず行き先を決めていても、道が混んでるから途中で高速道路を降りちゃって、別の場所に行くこともある。そこで家を探すんです。

20年もやっていますと、「この家は入りやすい」「この家は入りにくい」というのは見ただけでわかるようになります。たとえば町並み。猫が

寝てる。三輪車や自転車が乱雑に置かれてる。子供たちが遊んでる。おばちゃんたちが立ち話をしている——。こんな町は「息をしている」んですよ。そういうところだと、会話が進むし、あったかい。視聴者のみなさんが観ていても、ほっとするんです。新興住宅地できれいな町なだけで、話していても心がないように見えるところはダメ。息をしていないんですね。古い家でも雑巾がけしてピカピカな家なんかはいいですねえ。家が息をしている。

そうやって突撃して、断られることはしょっちゅうだし、そんなに怒らなくてもいいじゃないって思うときもあるし、本当にいろんな家があります。最近思うことを少しあげると、まず味噌汁が少なくなりました。ビーフシチューやスープに代わったんでしょう。あと自家製の漬物が減つて、市販のものが多くなりましたね。

この間は久しぶりに「おばあちゃんの代から60年使つてる糠床ぬかど」つていうのがあったなあ。それから、そばやうどんを食べている家は結構あるんですけど、パンを食べていたのは20年で3軒くらいしかありません。1軒はお坊さんでしたよ。日本人はやっぱりお米なんです。そして、大家族の家は、子供がみんな素直です。お父さん、お母さんが共稼ぎでいなくても、「ただいま！」って帰つてくると、おじいちゃんやお



## ヨネスケ（桂 米助）

かつらよねすけ

1948年千葉県生まれ。1967年、桂米丸に弟子入り。日本テレビのワイドショー『ルックルックこんにちは』の「突撃！隣のばんごはん」レポーターとして活躍。一旦終了したが、『ザ！情報ツウ』を経て、現在は『NNN Newsリアルタイム』内の人気コーナーとして引き継がれている。野球通としても知られ、本職である落語では、ヨネスケ流「野球落語」を創作し、披露している。

主な著書に『ごはん — 突撃！隣のばんごはん はあなたに幸福をもたらす！』（講談社）『新・相撲のススめ』（雄鶏社）『過激に巨人阪神戦』（共著）（廣済堂出版社）DVD：『桂 米助の野球落語』（テイクエンタテイメント）

ばあちゃんがいて、「お帰り」と迎えてくれる。愛に包まれてるんです。

北海道では短い夏を有意義に過ごす。車庫の前でバーベキューをするんですが、マトンはもちろん、北海シマエビとかウニとかエゾアワビとかが乗っかっていて、ものすごく豪華でした。そうやって夏を楽しむんですね。千葉に20世紀梨の発祥の地があるんですが、そこへ行ったときには、30代の主婦が3軒とも冬至の日にかぼちゃを食べていました。日本もまだまだ捨てたものじゃないなと思いましたね。

農家だと日の長い夏は遅くまで農作業をするから、晩ごはんの時間は遅くなる。冬だと早いです。でも漁師さんだと夏でも冬でも変わり

ません。5時半頃からですね。早い家だと4時半から食べていることもあります。

そしてこれは山間部に多いんですけど、水がおいしいところでは必ず自慢されます。毎日汲みに行ってるんだとか、水道なんだけど、地下何百メートルから汲み上げるとか、いろいろなんですけど、この水はいいよ。飲んでっつてよ」と言われるんです。飲むと本当においしい。臭みがなくて、極端に言うとかキレてるっていうのかな。ビールでもコクがあってキレがあるとか言うでしょ。あのキレです。おいしい水が一番のごちそうだし、水がうまいところは料理もうまい。これは実感です。

